

# 社会委員会通信

No. 55

2018. 8. 12

発行：横浜港南台教会 社会委員会

〒234-0054

横浜市港南区港南台 7-8-29

Tel : 045-833-5323 Fax : 045-833-6616

8月5日（日）、横浜港南台教会は、「下流老人とこれからの貧困—若い者も老いた者も考えるべき問題—」と題して、聖学院大学客員准教授・NPO法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典先生を講師にお招きし、講演会を催しました。

誰もが「下流老人」になりうる—このセンセーショナルなキャッチコピーは、この20年ほどの間に着実に広がった貧困の実態から生まれました。戦後、ただ右肩上がり続けた我が国の経済は敗戦後の絶対的貧困からの再出発であったため、国の指導者もまた国民一般も成長が止まった後のことを想定することができないまま、実際に成長が止まってからの20年間に先進国の中でも歪な社会構造をもたらしました。

収入が少なく、貯蓄が十分できない現代社会で高齢者が幸福に生きる道はありうるのか。個々人の自衛だけでは社会全体が破綻していくこと、政治に再び目を向ける必要があることを藤田先生は訴えられました。まともな将来像を描き出すことができない—そんな批判を政権与党に投げかけても、まともな将来像を描き出せる野党が存在しない今、私たちの民主主義がその根底から問われている—そんな思いになりました。

参加者は56名（男性17名、女性39名）でした。参加者の皆様、ありがとうございました。

（社会委員長：K・K）



## 下流老人とこれからの貧困 ～若い者も老いた者も考えるべき問題～

聖学院大学客員准教授 藤田 孝典  
NPO法人ほっとプラス代表理事

### ■はじめに

こんにちは。今日は教会にお招きいただき、「貧困」というテーマを選んでくださった皆さんに感謝申し上げます。貧困問題を皆さんと共有して、できるところから社会を良くしていきたいと思っていますので、自分自身のこととか、あとは周りの方々も含めて、関心のあるところ

から見ていただければと思います。約1時間お話をし、皆さんと解決策を考えていく時間とさせていただきますと思います。

今日の主題は「下流老人とこれからの貧困」です。私はこの過激な「下流老人」という言葉をずっと使っているのですが、本当は使いたくないのです。でも、この言葉を使わないと、

深刻さが伝わらないので、2015年くらいから、高齢者の貧困がすごく広がっていることに警鐘を鳴らすために、この言葉を使っています。

今日は全世代、若者からお年寄りまで日本に貧困が広がっているという話をしようと思います。皆さんは、貧困と言うと、どういうことをイメージされますか？ 発展途上国にあるような貧困ではなくて、先進国である日本の貧困を一緒に見ていけたらと思っています。

### ■これまでの活動

僕は、埼玉県の上尾市にある聖学院大学で日本の貧困問題を研究したり、学生に教えたりしています。僕の活動は、野宿生活をされている方の支援活動から始まりました。2004年から、埼玉を中心に炊き出しをやったり、日雇い労働の方とか、生活に困窮されている方の支援活動をしています。



### ■NPO 法人ほっとプラスの活動

僕は埼玉の越谷に住んでいます。埼玉に事務所を構えて、年間 1,000 件ほど相談を受けています。10代から 80代までいろいろな方がこのNPOに相談に来ます。お金がないとか、生活に困っているという相談がかなり多いです。これは首都圏の特徴です。横浜とか川崎からも相談に来ますし、メールとか電話だと、全国から相談があります。2000年代から活動していますが、近年ものすごく相談が増えてきました。

皆さんの年金、少くないですか？ 年金は年々下がっています。あと、介護保険料と国民健康保険料は上がっています。年金がこれ以上下がると生活していけないという相談が非常に多くあります。

今日の話は、裾野が広がっているという話です。昔は貧困と言うと、日雇い労働の方とか、不安定な仕事をしている方が中心だったのですが、近年、年金が減ってきていますし、若い方は働き方が不安定になってきています。非正規雇用が4割という状況です。働いてもなかなか収入が得られない。そういう中から、いろいろな苦しさが出てきている状況です。そういったものに対して、生活の相談を受けたりとか、家のない方もいますので、住宅を提供したりだとか、さまざまな取り組みを続けてきています。自己紹介をすると、僕らの仲間には教会関係者もいますし、労働組合の方、弁護士、税理士、いろいろな方がメンバーにいます。そういうメンバーと一緒に事務所で相談を受けては、どうしていこうかね、とずっと考えています。

### ■日本の貧困の現状

日本に広がっている貧困は、相対的貧困というものです。発展途上国とか、戦後間もない頃の日本は、絶対的貧困と言われていました。大学の授業みたいで申し訳ないのですが、絶対的貧困と相対的貧困がありまして、日本は絶対的貧困が比較的少なくなってきています。

ものが食べられないくらい、肉体の維持が難しいくらいの貧困を絶対的貧困と言います。むしろ増えてきているのは、相対的貧困です。相対的というのは、誰かと比べて、という意味なのです。誰と比べるかと言うと、普通の人です。普通に生活できている人は、大体所得が中央値と言われていています。大体真ん中あたりが中央値、一番層の分厚いところに所得のある人は普通の暮らしができていられると言われていています。その半分以下しか所得がない人を相対的貧困と言います。容認しがたい格差、容認することが難

しいくらいの格差と言われてたりします。働いてがんばった人はお金をたくさんもらえばいいと思いますけれども、がんばれなかったとしても、普通の暮らしができるようにしなければいけないと思います。

1970年代、1980年代、皆さんの若かった頃でしょうか？僕は1982年生まれですので、皆さんのお孫さん世代だったり、息子さん世代だと思います。僕には歴史上の出来事でしかないのですが、1960年代から1980年代にかけて高度経済成長で、右肩上がりの経済がありました。普通に働いたら皆豊かになる、普通に働いたら皆が幸せになるという時期がありました。僕はその後の世代です。後の世代は、成長はなかなかできない、そんな世代です。

経済成長はこの20年、なかなかできていません。特に1990年代末から、ゼロ成長、1%成長が続いています。所得がなかなか上がらないという状況です。

ちなみに、皆さんの年金ってどのくらいですか？所得とは、住民税、所得税、保険料を引いて手元に残るお金です。引かれた後はどうですか？月額10万円も手元にないという方はいませんか？

母子家庭のお母さんの場合、がんばって子どもを育てようとして、パートアルバイトの収入で2人世帯、3人世帯の所得に満たない家庭がかなり多いです。ようやくまた最低賃金を引き上げるようになってはいますが、母子家庭のお母さんは、最低賃金に張り付いて働いています。時給で900円とか950円で働いていますので、フルタイムで働いても、2人世帯、3人世帯で貧困が越えられない状況が広がっています。かなり格差が広がっていると言えます。ですので、年金とかアルバイト収入

と比較して見ていただきたいと思います。

## ■直近20年で貧困は社会に浸透した

貧困はどのくらい広がってきたのかと言うと、日本で一番所得があったのは1997年です。1人暮らしの方は大体300万円あったのです。今は、1人暮らしの方は245万円と言われていきます。この半分以下が日本で貧困と言われていて、何かしらサポートしなければいけない所得水準です。

1990年代末から、日本はじりじりと所得が下がってきています。この20年で劇的に貧困率は上がってきていて、自分の暮らしが成り立たない世代の人たちが急上昇しています。1日に3回食事をするだけでは人間は生きられません。食事だけではなくて、皆さんのように交流をしたり、病気になったら病院にかかるとか、必要なものは食べるもの以外にたくさんかかってきます。そういったものの捻出が難しい、費用はかけられない人が増えてきています。

少し若者の貧困の話をしようと思います。僕らの世代もそうですが、40代、皆さんの息子さん・娘さん世代に当たるところでは、「再生産の危機」と言われています。要は、子どもが生まれにくいということです。結婚・出産がちょっと難しくなっています。所得がかなり下がってきていて、貧困率が急上昇しているのが日本全体の状況だと思います。高度経済成長期にも寿町とか日雇いとか貧困はあったのですが、本当にごくごく些細な問題と捉えられていました。

## ■最低生活費以下の貧困



生活保護の基準以下の所得で暮らしている人がどのくらいいるのかということですが、大體国民全体の23%くらいが健康で文化的な最

低限度の生活が脅かされていると言われて  
います。憲法 25 条で、健康で文化的な最低限度  
の生活ができないとダメだよ、違憲状態だよ、  
と言われていたわけですが、年金受給者の方も、  
働いている方も、23%くらいの方が生活保護の  
基準以下の所得で暮らしています。

最近では、約 3,000 万人が生活保護の基準以  
下の所得で暮らしていることが確認されてい  
ます。横浜も埼玉も大体同じくらいなのですけ  
れども、1 人暮らしだと家賃込みで大体 12 万  
円が最低生活費です。2 人暮らしだと、大体 16  
~17 万円、3 人暮らしだと 20~22 万円が最低  
生活費です。医療費とか介護費とか税・保険料  
が無償になりますので、額面上はもう少しもら  
えるということになるわけですが、その基準で  
考えた時に、この所得に満たない中で暮らして  
いる方が相当いるということが分かっています。  
僕らもこれを政府に求めたいとか、対策し  
ていきたいと思いますとずっと要求してきてい  
るのですが、やはり貧困って、自分自身がなった時、  
恥ずかしいという思いを日本人の多くは持た  
れますので、政府に何かを要求しようとか、何  
とかお金を出してくださいよ、ということが、  
あまり大きな運動になりません。貧困は恥ずか  
しいもの、特に個人的なもの、個人が怠惰でそ  
うなったから、しょうがないでしょうというふ  
うになってしまっているのが、最近の特徴です。

ですので、まずは現状を一緒に見ながら、何  
とか対策を求めていくことを一緒にやってい  
かないと、状況は変わらないのではないかと  
思ったりしています。

### ■男性の年齢別貧困率

男性の年齢別貧困率については、1980 年代  
が、一番貧困率が低かった、格差が少なかった

と言われる 1 億総中流時代です。皆さんは経験  
されたと思います。1982 年生まれの僕には、  
歴史上の出来事です。近現代の歴史です。皆さ  
んは生き証人です。普通に働いたら、普通に皆  
が生活できる。格差が本当に少なかったです。  
働いたら皆、特に 30 代以上になったら、貧困  
率は 8%ぐらいでしかなかったのです。

では、現在はどうかと言うと、大学進学率が  
上がったということもありますけれども、正規  
雇用が 4 割で、なかなか貧困率が下がりません。  
ワーキングプアが広がっているということが  
確認できています。働いても貧困、というのが  
ワーキングプアです。高齢者については、貧困  
率が若干下がっています。これは、厚生年金を  
受給する方が増えてきているからです。企業に  
40 年間勤めたら、厚生年金をもらえます。以前  
は国民年金だけだったのですが、厚生年金を受  
給する方が増えて、若干下がってきています。

### ■女性の年齢別貧困率

女性もほとんど同じです。貧困率は全体的に  
上がっています。働いているのに貧困なのです。  
働いても、子どもを育てることが難しくなっ  
ています。ここに、子ども食堂とか子どもの無料  
の支援学習塾が全国に広がっている理由があ  
ります。



### ■単身世帯の貧困の増加

世帯を形成するには、ある程度ゆとりがない  
とできないわけですが、単身で働いてい  
る女性の 3 人に 1 人が「貧困状態」にあります。  
手元に残るお金が年間 122 万円、これを下回っ  
て働いている人が膨大だということが分かっ  
ています。女性は 3 分の 1、男性は 4 分の 1、  
これは内閣府が出している調査です。これで分

かってきた事例もあります。働いてもなかなか結婚できない世代が生まれています。先ほど少しお話しした「再生産の危機」と言われています。自分の身を立てること自体が難しい、非正規雇用や派遣社員やパートアルバイトの方が広がってきているのを見てとれると思います。

### 単身世帯の貧困の増加

- 単身で暮らす20～64歳の女性の3人に1人が「貧困状態」にある(2012年2月8日日経)
- 生活の苦しい人の割合を示す「相対的貧困率」が単身女性で**32%**。単身男性も**25%**。
- 長期間の1人暮らしは日本社会では想定外だった

**日本型家族システムの崩壊と社会保障の遅れ**

皆さんの頃はどうでしたか？ 結婚は普通にできましたよね。私たちの時代は先行きの見通しが立たないのです。1億総中流時代は、誰と結婚しても、普通の暮らしができる時代、安定がある程度担保された時代だと思います。今は、相当慎重に人を選ばないと将来困る、あるいは、現時点で収入が低いので、2人一緒になっても、結構苦しいです。ですから、子どもが生まれたらどうしよう、子どもをちゃんと育てられなかったらどうしよう、というような悩みを多くの方が抱えています。子ども食堂に来ているお父さん・お母さんもそうですけれども、怠けているのではなくて、子どもを育てることが極めて難しいです。働きながら家事・育児もしなければいけません。昔だったら、容易にできていたことが、最近難しくなってきたと思います。

### ■日本の高齢者の貧困

高齢者の貧困を見ていこうと思います。まず、数字にすると、約 20%が日本の高齢者の貧困

です。OECD 先進諸国が毎年調査しているのですけれども、これが日本の状況です。この 19.4%がどのくらいの数字かと言うと、先進諸国でかなり高い方に位置付けられます。

皆さんはどうですか？ 先ほど単身で 122 万円とか、2人暮らしの場合だと 170 万円の所得以下で暮らしている方が 20%くらいいると言いましたが、これは高い割合を示しています。

単身になると、極めて厳しいということが分かってきています。単身とは、1人暮らしのことです。1人暮らしで1人分の年金で暮らしている方については、男性だと4割くらい、女性だと5割くらいが貧困状態にあると言われていています。この貧困状態とは何かと言うと、夏は暑いけれど電気代がかかるからエアコンをつけられないとか、病院に行きたいけれど行けないとか、交通費がかかるから行けないとか、介護が必要だけれどヘルパーさんをお願いするとお金かかるからお願いできないとか、そういったお金の面で困ってしまうということです。こういった状況にある方、これからそうなるという可能性がある方がこれだけの割合いるということが最近確認されています。ですので、1人分の年金ではかなり苦しいということを押えておいていただきたいと思います。



### ■子ども世帯に頼れない現実

生活保護を受給する世帯も年々増加傾向にあります。今、生活保護を誰が受けているのか調べると、半数は高齢の方々です。自分たちが生活に困ったらどうしようかと考えると、子どもに頼ろうということが最優先に思い浮かぶと思います。子ども世帯について先ほどちょっとお話ししましたが、実は世帯主年齢 30～49歳、50～64歳で貧困率が上がっているのです。

皆さんの息子さん・娘さんは40代くらいでしょうか？ 貧困率が急上昇しています。失われた20年とか、就職氷河期世代とか、団塊ジュニア世代とか、いろいろな表現がされています。この年代のところで数字も悪化しています。先ほどワーキングプアが広がっているという話をしましたが、皆さんの世代は、働いたら間違いなくお給料をもらえたのです。間違いなく住宅をちゃんと買えるとか、子どもを1~2人くらい必ず育てられるくらいのお金をもらえたのです。でも今、この世代でお給料が劇的に下がっています。



### ■労働組合とユニオン

皆さんの時代に労働組合ってありましたよね。皆さんが入っておられたかどうかは別にして、労働組合は普通にありました。今、この年代では労働組合はほとんど組織されていません。労働組合の弱さが貧困の理由の一つです。あとは、困って誰かに相談するというような、皆さんのように宗教的な繋がりがあるということは、今、日本の若者の世代でほとんどありませんので、どうしようかということが今後の大きな課題として見えてくると思います。

労働分配率が過去最低水準にあるというのが今の状況です。労働分配率とは、働いている人に配られるお金です。お給料、賞与（ボーナス）、福利厚生、社宅とかも含まれますけれども、皆さんの年代は、社宅なども含めて、働いている人にはちゃんとお金が配られていた時代です。これが、年々下降傾向にあります。今は、一応これが過去最低ラインの低さになっています。でも、企業は儲かっていますので、中小零細企業を除いて、ある程度景気が良いと言われています。要は、分配が上手くいっていない

のです。労働組合を通じて要求するというのがなければ、企業はお金を払わないわけですが、あまり緊張感をもって要求することがなくなってきています。それが僕らの世代の状況かなと思います。パートアルバイトで働いたらいくらになるか調べていただければ、収入がすごく低いということが分かると思います。

### ■若者の貧困

高齢者の貧困に入る前に、若者の貧困を見ていこうと思います。皆さんの息子さん・娘さんはどんな雇用形態で働いていますか？ 連絡取り合っていますか？ 30代、40代の方に聞いてみると、皆さんの頃と比べて、「まだそんなお給料なの？」と、給料の低さに愕然とするのではないかと思います。この30年間、全然経済成長していません。他の国だと、皆さんの働いていた頃よりも1.3~1.5倍くらいのお給料を払っていますが、日本は、むしろ下がっています。

### ■増え続ける下層労働市場の労働者

働き方ですが、男性はほとんど日本型雇用（年功賃金・終身雇用）です。以前は、家庭において男性が1人働けば、ある程度はお給料をもらえましたよね。労働組合も強くて、ある程度要求すれば、お給料が増えました。お給料は年々上がりました。

今は、正社員ではない働き方だから弱っているのです。ワーキングプアが広がる一つの理由です。「名ばかり正社員」って聞いたことありますか？ あと、周辺の正社員、正社員ではない周辺の人たち。ブラック企業型正社員と言われているかもしれませんが、3年、5年で離職を繰り返しています。一つの企業にずっと居つかないと

ということです。あとは、パートアルバイトとか、そういった層が分厚く広がってきているのが、日本の今の状況です。40年間一つの企業に勤め続けて年功賃金というのが日本型雇用だとすれば、今はほとんど解体に近い状況です。

全体の雇用の4割が非正規と言われていまして、6割が正社員と思われている方が多いと思いますが、6割の正社員の中には、名ばかりの正社員も含まれているのです。皆さんが普通に経験してきた日本型雇用は、今では2割くらいしかないと言われていまして。

### ■ブラック企業の台頭と健康格差

最近、ブラック企業に関わって病気を発症する人が増えています。うつ病に罹患する方がかなり増えてきているのが最近の状況です。休職する理由も、傷病手当金を受ける理由も、ほとんどがうつ病です。皆さんの息子さん・娘さん世代が一番大変で、うつ病で働けなくなっています。皆さんの世代では、うつ病で働けなくなる方はほとんどいなかったのです。今、うつ病は一般的な病気になってきています。平成10年(1998年)でも増えたのですが、今ほどではありませんでした。今、休職すると言うと、ほとんどがうつ病です。長時間労働で低賃金、報われない働き方をしているから、うつ病がこんなに多くなっているということです。

皆さんの年代では、多くなかった病気なので、今の若者はよく分からない、と思っておられるかもしれません。やる気がない問題だと思われるかもしれませんが、これは病気なのです。

### ■労働組合とユニオン

僕らも労働組合を作ったり、いろいろ交渉しながら取り組んでいこうと思っています。介

護・保育・福祉業界で働く方の労働相談を受け付けていますので、困ったことがあったら、連絡いただけたらと思っています。

Tel : 03-6804-7650

E-mail : contact@kaigohoiku-u.com

※相談無料、秘密厳守します。お気軽にお問い合わせください。



### ■実家暮らしと生涯未婚率

皆さんの息子さん・娘さんは皆さんと一緒に暮らしていますか？ 実家暮らしもスゴイ特徴です。どれくらい若者の貧困が広がっているかが分かる理由の一つです。1980年代は皆さんの若者時代ですか？ ちょうど僕が生まれたあたりの年代ですが、働いたら実家から出る、というのが一般化してきた時代です。その前の時代は大家族制ですよ。おじいちゃん、おばちゃん、皆で暮らして、家制度があった時代ですが、ようやく少しずつ皆が豊かになって、家を出て世帯を形成しようとした時代です。今の時代はどうかと言うと、またもう一度家族が支え合う時代に戻ってきています。

39歳以下で統計をとった時の公式なデータによれば、2009年では50%くらいの人たちが親の家から出られないようになっています。家を出ると家賃がかかりますね。光熱費もかかるし、貯蓄もできない。実家にいないと家計が成り立たない子どもたちが増えてきました。

日本では、住宅政策がほとんどありません。海外だと、高齢者、若者、障がいのある方、母子家庭の方には、大体公営住宅を支給しています。公営住宅が足りない場合は、家賃手当を支給して、実家から出してあげる支援を他の国はやっているのですけれども、日本はほとんど何もやっていません。

皆さんの息子さん・娘さんは家にいますか？ 家を出て行きましたか？ 僕の妹は32歳で、今も実家で父親と暮らしています。よく父親とけんかをしています。「早く出て行け」「出て行くところがないんだ」などと言っています。家賃手当も何もないので、わずか20万円くらいの給料で首都圏に暮らすのは大変ですね。この辺りの家賃相場を見ていただきたいのですけれども、どんなに安くても、6～8万円かかると思っています。ですので、今のお給料では実家を出られないのです。

### ■子どもの貧困

働いている人たちのお給料がなかなか上がってこないで、子どもの貧困が広がっています。子どもの相対的貧困率は13.9%で、17歳

以下の子どもの7人に1人、250万人余りが貧困状態にあります。国民の平均的所得の半分を「貧困ライン」と呼びますが、その子どもたちが7人に1人です。平成24年(2012年)の貧困ラインは単身122万円、2人世帯で170万円、3人世帯で221万円程度です。今日、子ども食堂や子どもの無料学習支援塾の方がいらっしゃると思いますので、ご協力いただけたらありがたいと思います。



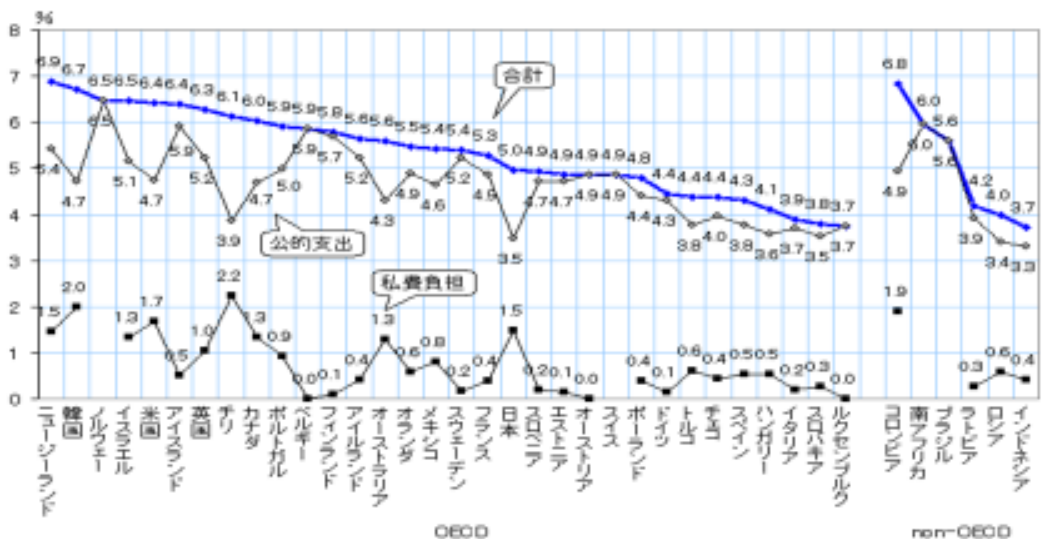
### ■未来への投資をしない国

日本で子どもの貧困が広がる理由の一つは、学校教育費があまり出ていないことです。少子化しているにもかかわらず、子どもを大事にしている国になってきています。

下の表はOECD先進諸国を並べたものです。

## 未来への投資をしない国

学校教育費の対GDP比(2012年)



(注) 初等教育から高等教育までの教育機関(幼児教育を除く)の教育費が対象。ノルウェー、スイス、南アフリカ、ブラジルは公的支出のみ(スイスは高等教育について、ノルウェーは高等教育以外について)

(資料) OECD, Education at a Glance 2015 (Chart B2.1)



日本は真ん中です。日本だけ特徴的な位置を占めています。これは幼稚園から大学までの学費を誰が払っているかという負担割合を示しています。日本は何が特徴的かというと、私費負担（家族の負担）が世界トップレベルです。大学まで家族が学費を払っている国は、ほとんどありません。日本は教育費をほとんど家族が払っている状況です。韓国とかチリとかアメリカと同じくらい、日本は家族が負担しています。先進諸国では特殊な国です。

一方で、何がもう一つ特殊かというと、税金のシステムです。日本は3.5と書いてあり、世界最低ラインです。税金で子どもを支えようという気がないのです。生まれた家庭が子どもの将来を左右します。勉強しようがしまいが、大学に行けるかどうかは、生まれた家庭で決まってしまう。それぐらいかなり格差が広がってきています。皆さんの世代は苦学生っていましたよね。貧乏な家に生まれても、勉強ができたら、じゃあ、がんばって大学に行こうかみたいな、それも学費免除になりますよとか、国立に入れば、ある程度費用は安くすみますよとか、あったわけです。でも今は、国立でも入学金は50万円を超えてきています。今は、あまり税金とか社会全体で子どもを支えようということにならなくなってきたと言えると思います。日本は上手く行っていると思っている方には、上手く行っていないので、どうしたらよいか一緒に考えていただけたらと思います。

## ■「下流老人」の出現



今、子どもと若者の貧困の話をしましたけれど、高齢者も例外ではないという話をします。子どもが困っているのだったら、子どもにお金を使えばいいじゃないか、高齢者のお金を回せ

ばいいじゃないかと、よく議論されるのですが、高齢者にもそんな余裕はないという話をこれからしようと思います。

「下流老人」とは、生活保護基準相当で暮らす高齢者およびその恐れがある高齢者のことです。今、高齢者は3,500万人います。その内、約1,000万人が1人暮らし122万円、2人暮らし170万円に満たない所得で暮らしています。

僕らも「下流老人」という言葉を使いながら、何とか対策しましょうよと求めながら、取り組みをずっと続けています。2016年に高齢者に臨時特例給付金が配られたのを覚えていますか？1人当たり3万円支給されました。1,130万人に3万円配ったのですよ。これ、政府に求めながら対策していこうということでやったわけです。1回限りです。1回限り3万円支給する。それだけです。でも恒常的に何かしら困っていたり、将来に不安を持っていたりするので、引き続き対策をしていこうと呼びかけながら、取り組みをしています。

## ■下流老人の暮らしとは？

僕らのところに相談に来る高齢の方は、こういう状態です。家族・友人と繋がりのないまま、家の中に引きこもった状況になっています。冠婚葬祭のお金がないとか、外に出る交通費がない、そんな状況の中で孤立してしまう高齢者が増えています。あとは、栄養状態の悪い方、家賃が払えない方、医療費が払えない方もたくさん相談に来ます。

## ■札幌・そしあるハイム火災事件

1月31日深夜に札幌で火災があった事件を覚えていますか？介護が必要な人たちが、まともな介護施設になかなか受け入れてもらえ

なかったり、お金が払えなくて、無届の有料老人ホームに入居していました。そこで起きた事件です。毎年毎年お金がない高齢者の方が介護施設で火災に巻き込まれるという事件が全国で相次いで起こっています。



## ■下流老人の特徴

こういう状況なので、早めに下流老人の特徴を知ってもらおうということで、いくつか挙げています。①収入が少ない、②十分な貯蓄がない、③頼れる人がいない。地域で①～③に当てはまる方がいらっしゃったら、教会にお誘いするとか、役所に一緒に案内していただくとか、サポートしていただけたらと思います。

### ◇特徴① 収入が少ない

下流老人の多くは低年金・無年金者です。単身高齢者の1か月の平均支出は約14万円です。仮に単身で年金額が月10万とすると、ひと月あたり4万円を貯金か働いて得る必要があります。

今、65歳以上の方は婚姻率が非常に高いので、年金2人分足して、厳しいけれど何とか生活できている方は多いと思います。夫が亡くなったら遺族年金に切り替わりますけれども、生活保護の基準と変わらない生活になってしまいます。ですので、夫を大事にしてください。何もしないと、こうしてほしいとか、いろいろ要求はあると思いますが、生きているだけで価値があると思っていただけたらと思います。1人暮らしの年金額は少ないです。

国民年金を40年間かけて、受給額は大体6万5千円です。首都圏は会社員の方が非常に多いので、どちらかと言うと、夫が厚生年金をもらっていて、妻が少ない厚生年金か国民年金と

いう方が多いです。家庭によってどれくらい年金をもらえているのか、本当に差があります。夫は公務員、ご夫婦とも公務員だった方は別として、多くの家庭では、1人になった時には生活が相当苦しいと思います。

2000年までは、もらった年金をそっくり使っても何ら問題はなかったのです。皆さんの年代のお父さん・お母さんの恩給や年金は結構高かったと思います。1980年代、1990年代のおじいちゃん・おばあちゃんの多くは悠々自適に暮らしていたと思います。

2000年以降、激変します。生活費はあまり変わらないのに、年金の額がすごく減っています。税、保険料を引かれて手元に残るお金を可処分所得（自由に使えるお金）と言いますが、歴史上ないくらい下がってきています。かなり高齢者の世帯で、可処分所得が限界水域に近づいています。これ以上下がってしまうと、首都圏だと生活保護の基準に割り込んで来る状況が発生しやすいです。平均的な、一般的な家庭でも、生活保護の基準と変わらないくらい厳しくなっています。

### ◇特徴② 十分な貯蓄がない

日々預貯金を切り崩して生活している方が多くなってきていると言えます。65歳以上で「貯蓄ゼロ」の世帯は増えてきて、今16.8%です。以前は「貯蓄ゼロ」世帯は5～8%でした。年々増加が止まりません。

ちなみに皆さん、あと何年くらい生きますか？（笑）貯蓄は、生きる時間も考えて計算しなければいけないのですけれども、皆さん元気ですよ。なぜ元気かと言うと、まだ寿命が来ていないからです。まだまだ生きてますよ、という話です。貯蓄持ちますかね？ 昔は60歳で定

年になったら、その後 10 年くらいでご夫婦 2 人とも亡くなりました。今、定年後 30 年くらい生きますので、貯蓄の意味合いが違ってきています。本当は、以前よりもっと多く貯蓄がないといけないわけですが、貯蓄額自体はあまり増えていません。横ばいです。むしろ高齢者の時間が長くなって来ていますので、貯蓄額が減ってきているというのが、全体の実像ではないかと思っています。

日本全体でお家にどのくらいお金があるかと言うと、大体 400 万円です。

## 特徴② 十分な貯蓄がない

- ・ <年代別金融資産額(カッコ内は中央値)>
- ・ 20代 184万円(0万円)
- ・ 30代 395万円(167万円)
- ・ 40代 588万円(200万円)
- ・ 50代 1128万円(500万円)
- ・ 60代 1509万円(650万円)
- ・ 70代以上 1379万円(514万円)

「家計の金融行動に関する世論調査(2016年)」

年齢別によっても全然違います。皆さんの息子さん・娘さん世代は、右側が中央値で、大体実態を表す数字と言われています。左側が平均値と言われていて、1 億とか 10 億持っている人も入れたものです。右側が実態を表す金額です。僕ら世代は 160 万円くらいしかありません。息子さん・娘さん世代は 200 万円くらいしかありません。20 代はゼロですね。50 万円以下はゼロに換算されるのですが、厳密に言うとゼロではありません。

一番層の分厚いところは貯蓄ができていません。ここで病気になったらどうしようという話になります。皆さんの世代(60代、70代以上)、650 万円くらいありますか? 皆厳しくな

ってきています。ファイナンシャル・プランナーは、老後 2,000 万円必要だとか、悠々自適に暮らすためには、1 人 3,000 万円必要だとか、言いますね。できないと思いませんか? 医療費、介護費は、これから増えていく場合は、税金を充てるよう言わないと、貯蓄だけでは生活は成り立たなくなると思います。



## ◇特徴③ 頼れる人がいない

関係性の貧困ですね。皆さんのように、繋がりをもった方が増えないといけないと思いません。皆さんは、お金がないんだよとか、こういった話を聞く機会がありますけれども、一般的には、そういった機会がありません。ですので、関係性もちゃんと保てない、繋がりがもてないという方が全国的に広がってきています。だから、教会にお誘いいただけたらと思います。ここは、こういったことを学んだりとか、どうしようか皆で考えたり支え合う場所ですので、そういった場所が増えないと、今後かなり厳しくなると思います。1 人寂しく孤独の中で亡くなっていく方が全国で多発していますので、孤独死、孤立死は今後も増えていくと思います。

1 人暮らしの問題は女性の問題です。女性は大抵の場合、1 人暮らしになります。1 人になった時の年金は相当少ないです。今ご存命の夫がいらっしゃる方がありますが、残念ながら、大抵は妻を残して先に亡くなります。その時にどのくらい資産を残しているか、確認していただけたらと思います。今日、お帰りになったら、「まさか借金していないでしょうね?」と聞いてみてください。

あと、繰り返しになりますが、男性が少数残っていますので、事実婚でも何でもかまいません。一緒になっていただけたらいいのかなと思

います。年金の金額だけ聞いてくつついちゃえばいいですので、顔も性格も関係ありません。(笑) 繋がってもらえたらと思っています。

お金がないという状況を、地域の皆で支え合いながら、「貧乏でも楽しく生きていこうよ」という考え方が必要ではないかと思います。アメリカ、ドイツ、スウェーデンと比較しても、日本は地域の繋がりが希薄です。日本には宗教的な繋がりはありませんので、皆さんのように宗教的な繋がりのある方は、日本では特殊なのです。本当は宗教がもっと役割を果たすことが必要ではないかと思っています。皆さんは、今日のように一緒に食事しますよね？ 教会での繋がりが深くなれば、病気の時に助け合ったり、相談事がある時に相談したりすると思います。田舎ではお茶飲み仲間とかありますが、都市部ではあんまりないですね。日本は、他の国に比べて、うわべだけの付き合いが多いと思います。もう少し深く関わるためには、教会だったり、自治会だったり、何か基盤がないと難しいと思います。

近所付き合いとか社会と繋がりがないと、病気になったり、要介護に結びつきやすいです。「近所付き合いがない」「独居」「ボランティアなど社会参加をしていない」「経済的に困窮」。この4つの項目の内、2つが該当すると、要介護になりやすいです。

## ■下流老人の問題の本質

高齢者の貧困も含めて、「下流老人」問題って、繋がりとかお金とか貯蓄とか、いろいろなセーフティネット、困らないような仕組みがなくなっちゃったことでしょうか、といろいろなところで話をしています。なくなると、ちょっとした病気で貧困になります。

息子さん・娘さん、元気ですか？ 大丈夫ですか？ 息子さん・娘さんを過度に助けなくてください。共倒れが最近相談で多くなってきています。過重労働になると、疲れて、うつ病になって実家に戻ってきたりとか、あるいは離婚して孫を連れて実家に戻ってきたりします。少ない年金で、息子・娘や孫を助けるとなると、年金が足りなくなりますので、過度に助けなくていただきたいと思います。役所に一緒に相談に行くとか、さまざまな手続きを一緒にやっけないといけないと思います。僕らも息子さん・娘さん世代の生活保護申請や年金手続きの手伝いとか労災申請を一緒にやったりしています。今、夏休みなのでお孫さんと遊びに行きますか？ お小遣いをちょっと減らしてください。少ない年金から過度に出す必要はないのではと思います。



## ■下流老人になるパターン

離別、死別が心配です。皆さん、離婚を考へたりしますか？ 落ち着いてよく考えてください。1人分の年金で暮らすのは、男性・女性共に本当に大変です。

あとは、認知症です。お金を散財してしまうとか、最近増えているのは、オレオレ詐欺です。お金をなくしてから相談に来る高齢者が結構多いです。認知症の方が多いです。1人暮らしで認知症になっていることが分からない方が詐欺被害に遭っています。それを察知することが得意なのは、悪徳業者です。1人暮らしで認知症のおじいちゃん・おばあちゃんを狙って、巧みにお金を盗って行ってしまいます。皆さんは長いお付き合いをされていますので、「昔のあなたと違うね」とか「もの忘れヒドイよ」とか「昔はもっとちゃんとしていたわね」とか、

そういうケースに気づいたら、ケアマネジャーに繋げたり、役所（高齢福祉課）に連絡していただけたらと思います。特に 85 歳以上の方に気をつけてください。85 歳以上の 40%の方が認知症になります。ですので、注意深く見守っていただけたらと思います。認知症は誰でもなります。認知症になったら終わりではなく、一緒に繋がって暮らしていくのは可能ですので、早めに見つけることが大事です。1 人暮らしだと、発見する人がいません。僕らもケアマネジャーさんとお宅訪問したりしますが、認知症の方は増えていると思います。

### ■高齢者の労働状況

これだけ年金が少なくなってくると、働く高齢者が増えています。65 歳以上の雇用者数は約 458 万人で、10 年前と比べて 2 倍以上に増えています。日本は働く高齢者が世界で一番多いです。何が不安で働いているのか聞いてみると、将来の医療費、生活費、介護費だそうです。医療・介護が補償ではないので、結構不安なのだと思います。

### ■現状の介護福祉制度の課題

介護費用も高いですね。介護保険料を払っていても、介護を受ける時は 1 割か 2 割負担します。これは日本特有の課題です。介護が重たい負担になってきているのが日本の特徴です。有料老人ホームを見ていただけたらと思います。東京で調べると、平均月額 30 万円とかあります。軽費老人ホームとかサービス付き高齢者住宅とか、いろいろありますので、見ていただけたらよいと思います。

### ■おわりに

では、貧困問題をどうしたらよいか、まとめます。一つは、生活をちゃんと理解しておこうということです。周りの人たちにお伝えいただきたいと思います。年金があっても生活保護を受けられます。貯蓄がなくなって、生活が相当大変の場合は、役所に案内して、「生活保護を受けられることを考えなさいよ」と言ってあげたらよいと思います。家とか車があっても、生活保護を受けられるということを覚えておいてください。最近、厚生労働省で委員を務めました。資産があっても手放さなくてもいいという通知が出されています。

高額医療費の助成制度とか、いろいろな制度がありますので、早めにソーシャルワーカーやいろいろな専門家に聞いてもらうとよいと思います。済生会病院とか協同病院とか生協病院は、無料定額診療事業により、保険証がなくても窓口負担ゼロで受診できる病院です。済生会病院はそんな病院ですので、「お金がなかったら済生会病院に行ってください」と言ってください。無料で受診できます。場合によっては、生活保護に結び付けますよ、という病院です。お金がない人は病院にかかれぬというのはウソですので、そのような制度を活用いただけたらと思います。

教会、生協活動、何でもいいです、いろいろなところに参加いただけたらと思います。高齢期には大事なことだと思います。

困ったら助けてくれと言えぬ力を「受援力」と言います。援助を受ける力です。長いお付き合いになればなるほど、誰かに気軽に相談することが難しくなったりしませんか？ 皆さん、自分の身の回りのことを相談しやすいですか？



自立する力よりも、これからは受援力が最も大切になります。皆さんはこれから困っていきます。「助けてくれよ。できなくなってきたんだよ」と相談していただけたらと思います。教会関係者にできない場合は、福祉関係者に繋ぐとか、いろいろできますので、まずは「助けてくれ」と言わないと始まりません。高齢期は何もかもできなくなっていく時期ですので、「助けてくれ」と言える関係性が大事だと思います。

インターネットをされる方は、twitter や

facebook を活用してください。twitter (@fujitatakanori)、facebook (※個人名とほっとプラス名義で展開)

最後に、最新著書『続・下流老人 一億総疲弊社会の到来』を買ってください。今日お話ししたのは、本のごく一部ですので、お読みいただけたら、より深いことが分かります。お買い求めいただけたらと思います。

これで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。



### 藤田孝典先生の主な著書

『下流老人～一億総老後崩壊の衝撃～』朝日新書 2015年 821円

『貧困世代～社会の監獄に閉じ込められた若者たち～』講談社現代新書 2016年 821円

『続・下流老人～一億総疲弊社会の到来～』朝日新書 2016年 821円

『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事～』岩波ブックレット 2015年 821円

『貧困クライシス～国民「総最底辺」社会～』毎日新聞出版 2017年 972円

『ひとりも殺させない：それでも生活保護を否定しますか』堀之内出版 2013年 1620円



### 社会委員会からのお知らせ

★今回の講師・藤田孝典先生の著書『下流老人』朝日新書 821円は、『続・下流老人』朝日新書 821円へと続いています。両方を読むと、日本の貧困問題に継続して取り組んでらっしゃる藤田先生の見識が深まっていく様子が分かります。

ご購入をお勧めいたします。

★社会委員会では昨年度から継続して貧困問題に取り組んでまいりましたが、次は天皇の代替わりと沖縄関連問題を取り上げたいと考えています。

★社会委員会へのご意見や学習会で取り上げてほしいテーマなどありましたら、社会委員にお知らせください。